



電話機のエクスポート

エクスポートユーティリティを使用すると、複数の Cisco Unified CallManager サーバ上のレコードを 1 台の Cisco Unified CallManager サーバにマージできます。Cisco Unified CallManager サーバから別の Cisco Unified CallManager サーバにレコードを移動する手順は、次のとおりです。エクスポートするのは、移動の対象となるレコードだけにしてください。次の手順を実行します。

- 電話機レコードのエクスポート (P.9-4)
- ユーザレコードのエクスポート (P.19-2)
- ユーザデバイスプロファイルレコードのエクスポート (P.39-4)
- (オプション) テキストエディタでの CSV ファイルの編集。レコード形式は、そのファイル形式に指定された形式に従っている必要があります。たとえば、電話機レコードは電話機ファイル形式に従っている必要があります。



注意

CSV ファイルを編集するときは、十分に注意してください。誤った形式でレコードを挿入すると、電話機が動作しない場合があります。

1. CSV ファイルを Cisco Unified CallManager サーバにアップロードします。詳細については、[P.2-5 の「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。



注意

レコードの挿入順序は、重要な意味を持っています。ユーザレコードを最初に挿入する必要があります。この方法によって、既存ユーザに対して、デバイスが適切に関連付けられます。

2. ユーザレコードを挿入します。
3. 電話機レコードを挿入します。
4. ユーザデバイスプロファイルレコードを挿入します。
5. ログファイルでエラーをチェックします。

その他の情報

詳細については、[P.9-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

電話機エクスポートの使用方法

電話機レコードをエクスポートする場合、次の2つのファイル形式オプションから選択できます。

[固有の詳細]：同様の設定の電話機の場合 (Default Phone ファイル形式)。

[すべての詳細]：パーティションやコーリング サーチ スペースが複数あるなど、回線設定の異なる電話機の場合 (All Phone Details ファイル形式)。

Default Phone ファイル形式

Default Phone ファイル形式を選択した場合は、定義済みクエリーを使用してレコードをエクスポートできます。

表 9-1 に、Default Phone ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。

表 9-1 Default Phone ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイス フィールド	MAC Address、Description、Location
回線フィールド	Directory Number、Display、Line Text Label、Forward Busy External、Forward Busy Internal、Forward No Answer Internal、Forward No Answer External、Forward No Coverage Internal、Forward No Coverage External、Call Pickup Group
ユーザ フィールド	User ID
短縮ダイヤル	Speed Dials

All Phone Details ファイル形式

All Phone Details オプションを使用して電話機レコードをエクスポートする場合は、特定モデルの電話機の電話機レコードをエクスポートすることになります。すべてのデバイス フィールド情報、各種の回線アトリビュート、および電話機に関連付けられているサービスがエクスポートされます。またはすべての電話機モデルを1つのファイルにエクスポートすることができます。すべての電話機のタイプを1つのファイルにエクスポートするには、[デバイスタイプの選択 (Select the Device Type)] ドロップダウンリスト ボックスから All Phone Types を選択します。クエリーを使用してレコード数を制限することはできません。

表 9-2 に、All Phone Details ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。



(注)

All Phone Details ファイル形式を使用してエクスポートする場合は、MAC アドレスではなくデバイス名が保存されます。

表 9-2 All Phone Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイス フィールド	Device Name、Description、Owner User ID、Device Pool、CSS、AAR CSS、Media Resource Group List、User Hold Audio Source、Network Hold Audio Source、Location、User Locale、Network Locale、Phone Button Template、Expansion Module type I、Expansion Module type II、Softkey Template、Phone Load Name、Module 1 Load Name、Module 2 Load Name、Login user ID、Built in Bridge、MLPP Indication、MLPP Preemption、MLPP Domain、Retry Video call as Audio、Privacy、Security Mode、Ignore Presentation Indicators、Single Packet Capture mode、Packet Capture Duration、Certificate Operation、Authentication Mode、Authentication String、Key Size (bits)、Operation Completes By
モデル固有のデバイス フィールド	Information、Directory、Messages、Services、Authentication Server、Proxy Server、Idle、Idle Timer、Enable Extension Mobility、Logout Profile、Login User ID、Login Time、Logout Time、Product Specific XML
回線フィールド	Directory Number、Partition、Voice Mail Profile、Line CSS、AAR Group、Line User Hold Audio Source、Line Network Hold Audio Source、Auto Answer、Forward All to Voice Mail、Forward All Destination、Forward All CSS、Forward Busy External to Voice Mail、Forward Busy External Destination、Forward Busy External CSS、Forward No Answer External to Voice Mail、Forward No Answer External Destination、Forward No Answer External CSS、Forward On Failure to Voice Mail、Forward On Failure Destination、Forward on Failure CSS、Call pickup group、Forward Busy Internal to Voice Mail、Forward Busy Internal Destination、Forward Busy Internal CSS、Forward No Answer Internal to Voice Mail、Forward No Answer Internal Destination、Forward No Answer Internal CSS、Forward No Call Coverage External to Voice Mail、Forward No Call Coverage External Destination、Forward No Call Coverage External CSS、Forward No Call Coverage Internal to Voice Mail、Forward No Call Coverage Internal Destination、Forward No Call Coverage Internal CSS、Display、External Phone Number Mask、Message Waiting Lamp Policy、Ring Setting When Idle、Line Text Label、Ring Setting When Active、No Answer Ring Duration、MLPP Target Destination、MLPP Calling Search Space、MLPP No Answer Ring Duration、Max Num Calls、Busy Trigger、Call Info Display Mask、Alerting Name
ユーザ フィールド	User ID
短縮ダイヤル	Speed Dial Number、Speed Dial Label
サービス	Service Name、Subscribed Service Name、Parameter Name、Parameter Value

その他の情報

詳細については、[P.9-6](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話機レコードのエクスポート

Cisco Unified CallManager から電話機レコードをエクスポートする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 次のオプションのいずれかを選択してください。

- **Bulk Administration** > [電話] > [電話のエクスポート] > [固有の詳細] の順に選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。
- **Bulk Administration** > [電話] > [電話のエクスポート] > [すべての詳細] の順に選択します。
[電話のエクスポート (Export Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のオプションから値を選択します。

- **All Phone Details** オプションを選択した場合は、[デバイスタイプ (Device Type)] ドロップダウン リスト ボックスでデバイスのタイプか特定のモデルを選択します。この形式でエクスポートされるフィールドの一覧は、表 9-1 を参照してください。ステップ 5 に進みます。
- **[固有の詳細]** オプションを選択した場合は、[デバイスタイプ (Device Type)] ドロップダウン リスト ボックスでデバイスのタイプか特定のモデルを選択します。Default Phone ファイル形式でエクスポートされるフィールドの一覧は、表 9-2 を参照してください。

ステップ 3 [固有の詳細] を選択した場合は、[デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで SIP または SCCP を選択します。

ステップ 4 [固有の詳細] では、エクスポートする電話機セットを選択するとエクスポート ファイルをカスタマイズできますが、電話機の詳細は設定できません。

- a. 最初の [検索対象: 電話、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [デバイス名]
 - [説明]
 - [電話番号]
 - [コーリングサーチスペース]
 - [デバイスプール]
 - [コールピックアップグループ]
 - [LSC ステータス]
 - [認証文字列]
 - [セキュリティプロファイル]
- b. 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [が次の文字列で始まる]
 - [が次の文字列を含む]
 - [が次の文字列と等しい]
 - [が次の文字列で終わる]
 - [が空である]
 - [が空ではない]
- c. 検索フィールドまたはリストボックスで、検索する値 (たとえば、デバイス名) を選択するか、入力します。

- d. 複数のフィルタを追加するには、[絞り込み] チェックボックスをクリックして **AND** または **OR** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、サブステップ a. ~ c. を繰り返します。
- e. [検索] をクリックします。検索結果が表示されます。
- f. [次へ] をクリックします。[電話のエクスポート (Export Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- g. [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで、電話機のファイル形式を選択します。

ステップ 5 [ファイル名 (File Name)] テキストボックスにエクスポート ファイル名を入力します。

ステップ 6 Job Information 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 Run Immediately オプション ボタンをクリックして電話機レコードを即座にエクスポートするか、Run Later をクリックして後でエクスポートします。

ステップ 8 [送信] をクリックして、電話機レコードをエクスポートするジョブを作成します。

ステップ 9 Bulk Administration メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 51 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.54-4 の「BAT ログ ファイル」](#) を参照してください。

エクスポート ファイルは、Bulk Administration メニューの [ファイルのアップロード / ダウンロード] オプションを使用してアップロードまたはダウンロードできます。詳細については、[第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」](#) を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.9-6 の「関連項目」](#) を参照してください。

複数ユーザを持つ電話機レコードのエクスポートおよびインポート

電話機を制御する複数のユーザを持つ電話機レコードをエクスポートすると、エクスポート ユーティリティにより各ユーザについて一意の電話機レコードが生成されます。電話機情報は同じままですが、各レコードのユーザ ID は異なります。

エクスポート ファイル名には、タイムスタンプのサフィックスが付加されます。電話をエクスポートするジョブが反復的にスケジュールされている場合、情報は同じファイル名でエクスポートされますが、タイムスタンプが異なります。

複数ユーザを持つ電話機が含まれたエクスポート ファイルをインポートすると、すべてのユーザが同じレコードにエクスポートされます。

インポート トランザクションのログ ファイルには、電話機と関連付けられた最初のユーザ以外のすべてのユーザの電話機の挿入が失敗したことが示されます。

その他の情報

詳細については、[P.9-6 の「関連項目」](#) を参照してください。

関連項目

- [電話機レコードのエクスポート \(P.9-4\)](#)
- [ユーザレコードのエクスポート \(P.19-2\)](#)
- [ユーザデバイスプロファイルレコードのエクスポート \(P.39-4\)](#)